



地球温暖化対策 一人ひとりの行動から

～ 始めに ～

地球温暖化は、私たちの暮らしにさまざまな影響を与えています。季節外れの大型台風上陸や観測史上最高の気温更新など気候変動により異常気象が起こりやすくなり、農作物や動植物への影響、大雨に伴う河川氾濫や山崩れなどによる住宅被害、高温による熱中症患者の増加や感染症の原因となる蚊の繁殖範囲の広がりなど、健康への被害も心配されます。

地球温暖化を含む環境問題は、豊かな暮らしを求めた結果により生じた問題といえるのではないのでしょうか。

今回は、私たちができる身近な温暖化対策について紹介します。



温室効果ガスとは？

温室効果ガスとは、赤外線を吸収する性質をもち、大気圏に存在する二酸化炭素、水蒸気、メタン、一酸化二窒素、フロンガスなどがあります。

地球温暖化のメカニズム



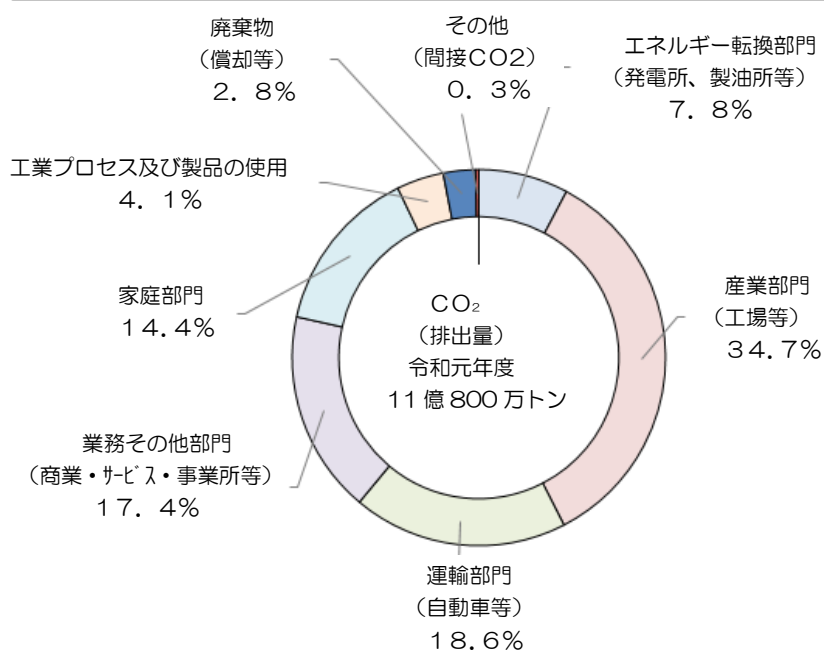
地球の現在の平均気温は14℃前後で、大気中に含まれる二酸化炭素などの温室効果ガスが無ければ氷点下19℃くらいになると言われています。

地球は、太陽からの日射エネルギーにより地面が暖められ、その地表から放出される熱を温室効果ガスが吸収し、大気を暖めています。産業革命以降、石炭や石油など化石燃料の燃焼によって、大気中の二酸化炭素などの温室効果ガス濃度が高まり、熱吸収が増えた結果、気温が上昇し地球温暖化が始まりました。

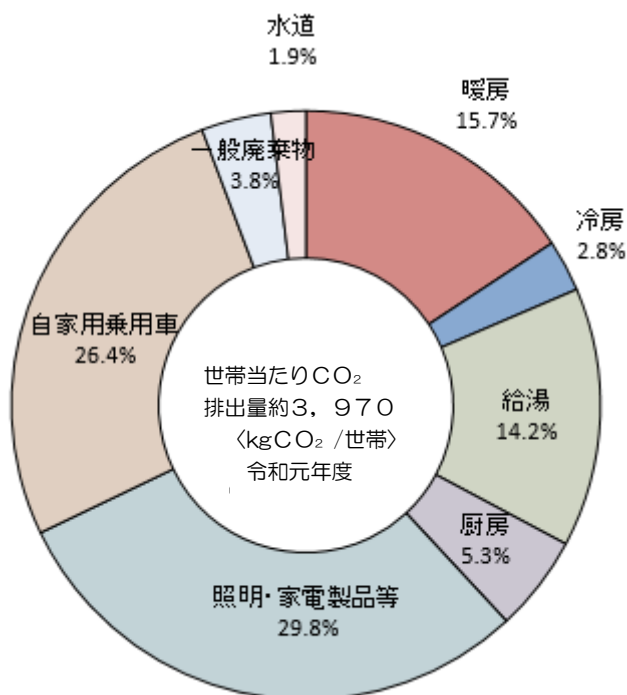
家庭から排出される二酸化炭素の割合について

日本における令和元年度の二酸化炭素の排出量について、全体の約14.4%が家庭から排出されています。また、一世帯当たりの二酸化炭素排出量が1年間で約3,970kg-CO₂でした。その割合は、照明・家電製品などからが約29.8%、自動車が約26.4%、冷暖房で約18.5%の順番となっています。

日本の部門別 二酸化炭素排出量の割合



家庭からの二酸化炭素排出量



「SDGs」ってなーに？

～持続可能な開発目標～

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」。SDGsと書いて、「エス・ディー・ジーズ」と読みます。

2015年9月に193カ国が加盟している国連サミットにおいて採択されたもので、「より良い世界を目指し、地球上の誰一人として不幸にさせないこと」を目的として、2016年から2030年の15年間で世界の環境・経済・社会課題の解決のために17の目標を掲げたものです。

☆☆☆ SDGsの17の目標 ☆☆☆

- 1《貧困をなくそう》
 - 2《飢餓をゼロに》
 - 3《すべての人に健康と福祉を》
 - 4《質の高い教育をみんなに》
 - 5《ジェンダー平等を実現しよう》
- ※ジェンダーとは、社会的意味合いから見た男女の性区分。「男性はこうあるべき」「女性はこうすべき」という社会の中でつくられたイメージや役割分担のこと。
- 6《安全な水とトイレを世界中に》
 - 7《エネルギーをみんなにそしてクリーンに》
 - 8《働きがいも経済成長も》
 - 9《産業と技術革新の基盤をつくろう》
 - 10《人や国の不平等をなくそう》
 - 11《住み続けられるまちづくりを》
 - 12《つくる責任 つかう責任》
 - 13《気候変動に具体的な対策を》
 - 14《海の豊かさを守ろう》
 - 15《陸の豊かさも守ろう》
 - 16《平和と公正をすべての人に》
 - 17《パートナーシップで目標を達成しよう》



「世界中にある課題を、全人類で解決するための目標」と大きなテーマですが、個人・家庭で取り組めるものも沢山あります。表面で記述しています「身近にできる地球温暖化対策」もその取組みの一つです。

貧困・飢餓・紛争・教育の質や男女格差、気候変動・自然災害・エネルギー問題など様々な課題があります。各国の企業や団体がSDGsの取組みを行っています。私たちもSDGsに関心を持ち、その必要性を理解して行動することが大切です。

世界中の子供たちの明るい未来のために、まずは個人で出来ることから始めましょう。

鬼北町役場 環境保全課
電話0895-45-1111
(内線2441~2443)